



東北大学



IRIDeS



みちのく震録伝



wanbishi
ARCHIVES

情報資産は、アウトソーシングで進化する。

平成 24 年 10 月 9 日

東北大学災害科学国際研究所

株式会社ワンビシアーカイブズ

東北大学災害科学国際研究所「みちのく震録伝」による 震災記録データの一括保管とワンビシとの協働による 遠隔地・長期保管の開始

東北大学災害科学国際研究所による東日本大震災アーカイブプロジェクト「みちのく震録伝（しんろくでん）」は、様々な機関（企業、NPO、学校、自治体等）で所有している震災記録データの一括保管と株式会社ワンビシアーカイブズ（本社：東京都港区、取締役社長：豊田康晴、以下、ワンビシ）との協働による震災記録データの遠隔地保管および長期保管を開始します。

東日本大震災では、様々な記憶、記録、事例、知見が得られましたが、震災から1年半を経過した今、被災地を支援し続けた企業・NPO等の縮小や解散により震災記録は消えつつあります。そこで、「みちのく震録伝」では、消えゆくデータ、一散してしまうデータを機関単位で一括的に保管を行います。また、収集した震災記録は、保管依頼した機関と協議し、一般公開とそれ以外（研究目的のみ利用等）に区分けし、データのバックアップを行い、ワンビシの情報管理センターを活用して同時被災を避ける遠隔地の長期保存に適した環境で保管します。「みちのく震録伝」とワンビシでは、後世に伝えるべき貴重なデータの災害対策・障害対策と確実な長期保存に今後も継続して取り組みます。

東北大学災害科学国際研究所

責任者： 教授 今村文彦

担当・お問い合わせ： 022-795-4842

准教授 柴山明寛

助教 佐藤翔輔

株式会社ワンビシアーカイブズ

担当・お問い合わせ： 03-5425-5400

経営企画部 浅川慶洋・百瀬陽子

【みちのく震録伝について】

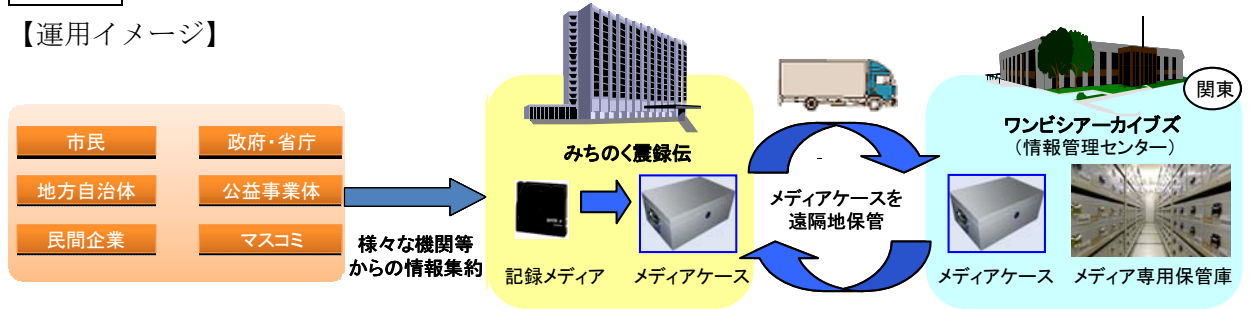
- ・ 本プロジェクトは、今回の震災の被災地を中心にして、歴史的な災害から東日本大震災まで、様々な視点から集められた記憶、記録、事例、知見を収集し、分野横断的な研究を展開し、東日本大震災の実態の解明や復興に資する知見の提供を進めていきます。
- ・ 本プロジェクトは10年間継続して、官民・個人・団体問わず、震災記録のデジタルデータを収集しております。
- ・ 本プロジェクトの詳細については、本プロジェクトのホームページをご参照下さい。
「みちのく震録伝」 <http://shinrokuden.irides.tohoku.ac.jp/>
- ・ 震災記録のデジタルデータのお預けを検討されている方は「みちのく震録伝」までお問い合わせください。
- ・ 震災記録の紙資料のお預けを検討されている方は以下のホームページをご参照下さい。
図書館共同キャンペーン「震災資料を図書館に」
<http://www.library.tohoku.ac.jp/shinsaikiroku/#top>

【ワンビシアーカイブズについて】

- ・ ワンビシは情報資産のリーディングカンパニーとして 1966 年創業以来、一貫して『企業の情報資産の安全確保と効率的な活用』を追求し、日本のビジネスシーンにおけるレコードマネジメントを常にリードして参りました (※)。
 - ・ 堅固なセキュリティ体制のもと、重要な情報資産の発生段階から活用、保管、抹消までのライフサイクル全てをカバーした総合的なサービスを提供し、現在、金融機関などの大企業や官公庁を中心に、およそ 4,000 社のお客様にお取引いただいております。
 - ・ 立地や地盤にこだわった情報管理センターは、東日本大震災後に増加した情報資産の災害対策ニーズを汲み 2011 年 11 月宮城県名取市に新センターを開設し、全国 12 ヶ所となりました。
 - ・ ワンビシは「みちのく震録伝」の活動に共感し、これからも活動に参加・協力して参ります。
 - ・ 詳細は Web サイト (<http://www.wanbishi.co.jp/>) をご覧ください。
- ※ 紙文書と記録メディアの保管においてそれぞれ国内シェア 1 位
(ワンビシ調べ)

参考資料

【運用イメージ】



【メディアケース写真】



【メディア専用保管庫写真】

